

24th J. Oleo Sci. Editor's Award 受賞によせて渡邊 博文¹・大川原 正喜¹・又平 芳春¹・真野 貴²・和田 竜哉²・鈴木 直子³・高良 毅⁴¹三生医薬株式会社 ²日本薬品株式会社 ³株式会社オルトメディコ ⁴医療法人社団盛心会 タカラクリニック

渡邊 博文



大川原 正喜



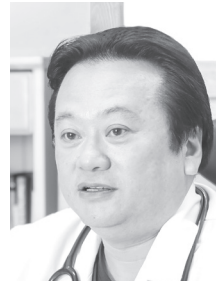
又平 芳春



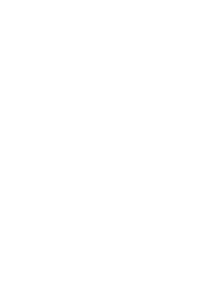
和田 竜哉



鈴木 直子



高良 毅



真野 貴

この度、*Journal of Oleo Science* 69 (12), 1597-1607 (2020) に掲載された“The Impact of Ascidian (*Haliocynthia roretzi*)-derived Plasmalogen on Cognitive Function in Healthy Humans: A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Trial”を24th J. Oleo Sci. Editor's Award に選出戴きましたことを、著者一同大変光栄に存じます。

プラズマローゲンは、イチョウ葉エキスやドコサヘキサエン酸 (DHA) に次ぐ新しい脳機能素材として期待されています。現在の市場においても、機能性表示食品として、本論文で注目したホヤだけでなく、ホタテや鶏ムネ肉から抽出したプラズマローゲンが含有された脳機能サプリメントが販売されるようになってきました。プラズマローゲンは、グリセロール骨格の sn-1 位に酸素と反応性の高いビニルエーテル結合をもつリン脂質の総称であり、ヒトの体内にも存在し、脳神経細胞、心筋、リンパ球、マクロファージ等に多いとされています。その構造中には、高度不飽和脂肪酸が結合しており、特にホヤから抽出したプラズマローゲンはエイコサペンタエン酸 (EPA) や DHA が多く含まれています。

私どもがホヤのプラズマローゲンに注目したのは、東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた東北のホヤ養殖業が、養殖業者の努力によって生産量が復旧しつつある頃でした。海外輸出が再開できない状況の中で、国内需要を伸ばすための、そして微力ながらそれに貢献するための、本研究はその第一歩だったと思いだされます。

最近、「フレイル」という言葉を聞くようになりました。フレイルは、2018年に日本老年医学会が“frailty”の日本語訳として提唱した用語で、『加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態』と言われています。フレイルには、体重や筋肉量の減少を主因とした低栄養や口腔機能、運動機能等も含まれますが、加齢に伴う認知機能の低下は、現在の超高齢社会において最も対策が必要なフレイルの一つとなっています。

本論文では、MCI (軽度認知障害) を含む健常者に対して、ホヤから抽出したプラズマローゲンを長期摂取することで、認知機能が改善される可能性が高いことを初めて見出しました。本論文が起点となり、ホヤのプラズマローゲンの可能性が広く深く研究され、現代社会が直面している問題に対して僅かでも貢献できれば幸甚に存じます。

私どもは、今回の受賞を一層の励みとして研究に邁進してまいりたいと考えております。末筆ながら、私どもの論文を24th J. Oleo Sci. Editor's Award に選出戴きました JOS 編集委員会の皆様と心より感謝申し上げますとともに、日本油化学会ならびに会員の皆様の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

本論文の研究に関しまして、株式会社オルトメディコの飯尾晋一郎氏、星野智宏氏、馬場亜沙美氏、田中瑞穂氏には、多大なご協力を賜りました。ここに記して、感謝の意を表します。